

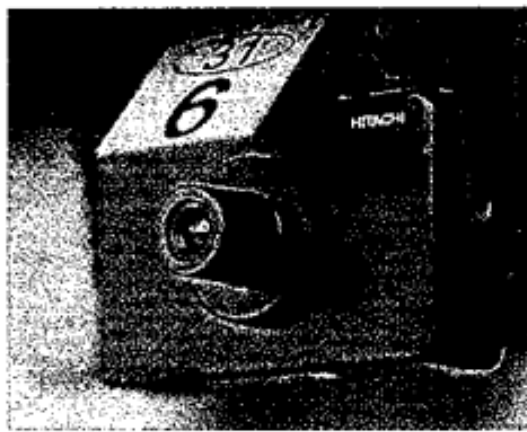
ダイハツ

後付け安全装備を本格展開

純正ナビの性能も強化

ダイハツ工業は、後付けの安全装備を本格展開する。単眼カメラを用いた後付けの衝突警報装置Ⅱ写真Ⅱを投入すると同時に、カーナビ全機種を高速道路の逆走警告機能付きに一新した。安全装備に対するニーズが高まる一方で、衝突回避支援システム「スマートアシスト」(SA)が装着できない車種や既販車などの対応が課題となっている。後付け安全装備の投入に合わせて提案を本格化することで、さらなる事故抑制とドライバーの収益改善につなげていく。

新たに発売した「衝突警報
セット」は、前方車両及び歩
行者との衝突や、車線逸脱、
制限速度超過、前方車発進を
音や画面表示で警告する。一
方でブレーキ操作には介入し



ない。システムはフロントガラス上部の単眼カメラと、ディスプレイに装着する専用

ディスプレイで構成。車種を選ばずディーラーで装着できる。取り付け費用込みで約10万円に設定した。

2018年モデルとして発売した純正カーナビも安全性を強化した。同社として初めて高速道路での逆走警告機能を追加し、全機種で対応した。逆走を検知して警告するほか、高速道路の入り口やサービスエリアなど逆走しやすい場所で注意を行う。さらに

上位機種では「ミライース」に採用したリアコーナースキャンにも対応した。安全機能の充実を訴求することで、カーナビの装着率向上につなげていく狙いだ。

ダイハツではSAの導入をきっかけに販売を伸ばしており、SA設定車種での装着率は9割近くまで高まっている。一方で技術的な問題から「ハイゼットトラック」や「ミニアルトランスミッシュン(MT)車などはSAの採用を見送っているのが現状だ。ただ、トラックやMT車、既販車などは高齢者ユーザーも多い。後付け装置はSAに比べて割高なもの、安全装備へのニーズは高いと判断。事故抑制に効果的な装備として、SA非装着車や車検入庫などの既販車への提案を積極化していく。